

日本語のあいさつことば

—「どうも」のはたらきについて—

住 田 幾 子

はじめに

外国人留學生が抱く日本語に対する疑問の一つに、あいさつことばの「どうも」というのがある。『どうも』は、どういう時に使うのですか。」と問われて、すぐには、相手の納得がいくようには答えられなかつた経験がある。

自分自身の言語生活をふり返ってみる。たとえば、個人病院や商店で支払いを済ませ、その場を立ち去ろうとする時、さて何とことばをかけようか、と考えることがある。瞬時迷つて、結局、適当なものとして「どうも。」というあいさつ表現を選んでゐるのである。ある時はまた、「どうも。」と言われて、一瞬、嫌な思ひをすることもある。人に足を踏まれた時に、「あ、どうも。」という陳謝のあいさつことばでは、少しムツとする。あるいは、買物を終えた後も、「どうもー。」という感謝のあいさつことばではぞんざいな感じがするものである。

「どうも」については、まず『日本国語大辞典』の「どうも」

日本語のあいさつことば — 「どうも」のはたらきについて—

の項に、つぎのような説明がある。

④感謝したり詫びたりする気持を含む挨拶(あいさつ)に用いる。内容を省略し、「どうもどうも」と重ねて用いることも多い。

(以下、用例略。)

⑤あいまいな、または安易な挨拶のことばとして用いる。(以下、用例略。)

つぎに、『基礎日本語——意味と使い方——』(角川小辞典?)、森田良行 一九八〇)の「どうも」の説明では、つぎのとおりである。

□この「いずれにしても」の気持ちが弱まって、固定した一つの言葉として慣用化すれば、もはや感動詞である。

「どうも有難うございました」「どうも、馳走さま」「これはどうも」「や、どうも」「どうも、どうも」「昨日はどうもすみませんでした」「どうも失敬」「先輩、さのうはどうも」

そして、『外国人の疑問に答える日本語ノート1 ことばと生活』(水谷修・水谷信子著一九八八 ジャパンタイムズ)の「ドウモ (Indeed)」の項には、「一般的な用法」の中の「②社交上の用法」

として、つぎの説明がなされている。

Thank you,

Sorry,

Excuse me,

Thank you for coming,

Sorry to take your time,

Hello

Good—bye

以上の説明にあたって、「どうも」が、まずは、感謝・詫びのあいさつ表現であることがわかる。「どうも」は、これらの文表現において、一語部をになっている。あるいはまた、「どうも」が文の最後に立った表現もある。さらには、「どうも」が独立して一文を成すに至っているのである。それらの文表現の意味・用法も、なるほどと理解することができる。

が、実際に、「どうも」というあいさつ文表現が、身のまわりの言語生活において、どのように使われているかを、具体的にわかりやすく説明することは難しい。留学生たちは、さかんに耳にする「どうも」を使いたいと思うのだが、いざ使おうとする段において不安になる。「どうも」の使い方を、整理して把握することができないからである。

この稿では、日本語のあいさつことばの中の、「感謝」「詫び」の表現の一環として、「どうも」がかかわるものについて、つぎの点に注目して整理していくことにする。

I 文表現の類型を見る。

II 談話上でのはたらきを見る。

III 待遇表現上の法則を見る。

以上の三点を把握するために、主に、筆者の身近な存在である女子学生の用例を採集する。

調査年月 一九九二年十一月～一九九三年十月

被調査者 梅光女学院大学2年生

調査方法 女子学生の内省をもとにした談話の記録と筆者の観

察記録

女子学生の内省記録作業は、一定の時間に、一斉に記録するようにした。あらかじめ、記録内容について解説し、記録の場面と話者に関する情報の提示を求めた。また、自分たちの話しことばを、あくまでも、素直に、忠実に書きとる練習も行った。記録の内容は、各自、思い浮かんだ事件を自由に記録することとした。用例は、つぎの三つの題目を提示して記録したものである。

(1) 感謝のあいさつ表現を使用した場面

(2) 詫びのあいさつ表現を使用した場面

(3) 「どうも」というあいさつ表現を使用した場面

一、「どうも」がかかわるあいさつ文表現

一、1 「どうも＋し」の文表現

「どうも」は、主として感謝・詫び・ねぎらいなどのあいさつ文

表現において、修飾部としてはたらく。

感謝の表現

① どうも ありがとうございます。

陳謝の表現

② どうも すみません。

③ どうも もうしわけありません。

④ どうも ご迷惑をおかけしました。

⑤ どうも 失礼しました。

⑥ どうも お邪魔しました。

⑦ どうも おさわがせしました。

謝意を含むねぎらいの表現

⑧ どうも わざわざ すみません。

⑨ どうも お手数かけました。

⑩ どうも お世話になりました。

⑪ どうも ごちそうさまでした。

ねぎらいの表現

⑫ どうも ご苦労さまでした。

⑬ どうも お疲れさまでした。

出会いの表現

⑭ どうも ごぶさたしています。

祝いの表現

⑮ どうも おめでとunggざいます。

悔みの表現

日本語のあいさつことは — 「どうも。」のはたらきについて —

⑯ どうも ご愁傷さまです。

以上の他に、「ほんとうに」が添えられる表現もある。

⑰ ほんとに どうも ありがとうございます。

⑱ ほんとに どうも すみません。

文表現としては、「どうも」より「ほんとうに」「まことに」「たいへん」などの語の方が意をつくしている。手紙文における「どうも」の用例にあたってみたが、「どうも」より「まことに」「大変」の例の方が多い。「どうも」については、

⑲ して、どうも申しわけございません。

⑳ して、どうもありがとうございます。

㉑ しては、どうもお世話になりました。

などの例が見られる。また、

㉒ お手紙 どうもありがとう。

㉓ 冬休みは 色々どうも。

など、目上から目下での手紙文に使われている。が、「どうも」は、手紙文よりも、むしろ話しことばの中で活用されているものと言えよう。

以前に老年層の女性のあいさつことは調査した際には、謝辞として「オーキニ(おおいに)」「ホンニ(ほんとうに)」などの例があり、「どうも」については、「ドーモ ドーモ」と重ねた表現しか得られなかった。(住田幾子 「方言生活に見られるあいさつことばについての研究」一九七八) 調査の不十分を反省するとともに、実際の言語生活に生きる「どうも」を、あるがままにとらえ、記録

することの難しさを知った。

この調査では、「オーキニ アリガトーゴザイマシタ。」という謝辞の慣用表現から、さらに「オーキニ」という修飾部が独立して「オーキニ。」という一つの文表現が成立するすがたが見てとれた。「どうも」また、「ドモ。」という一文表現として成長しているのである。が、しばらくは、「どうも。」文表現が、その背景としてになつてゐるものを探つてみたいと思ふ。

一、2 「どうも＋」。＋「」。の連文表現

先に、「どうも」が修飾部としてたつ文表現を単文のレベルで分類、整理してみた。「感謝」「陳謝」「謝意を含むねぎらい」「ねぎらい」「出会い」などの表現が、日常生活に身近なものである。が、実際の言語生活においては、単文ではたらくよりも、二文、三文の連文表現じたてではたらくのが自然な状態である。

感謝＋陳謝

- ②4 どうも すみません。ありがとうございます。
- ②5 すみません。どうも ありがとうございます。
- ②6 どうも すみません。助かります。

感謝＋陳謝（別辞）

- ②7 どうも ありがとうございます。お邪魔しました。
- ②8 夜分 遅くに 申しわけございませんでした。どうも ありがとうございます。どうございました。

陳謝＋陳謝（別辞）

- ②9 どうも すみません。失礼します。
- ③0 どうも お邪魔しました。遅くまで すみません。ねぎらい＋陳謝

- ③1 お手数おかけいたしました。どうも すみません。
- ③2 どうも すみません。いつもいつも お世話になります。

陳謝＋依頼

- ③3 どうも すみません。よろしく お願いします。
- ③4 どうぞ よろしく お願いいたします。どうも 失礼しました。

陳謝＋陳謝＋陳謝（別辞）

- ③5 どうも ご迷惑をおかけしました。すみません。失礼しました。
- ③6 どうも すみません。お手数かけました。ありがとうございます。失礼しました。

- ③7 お疲れさまでした。どうも ありがとうございます。失礼します。

発想の異なる文を重ねて、連文じたてで一つのあいさつ表現を成しているのがわかる。あるいはまた、陳謝をくり返して重ねていつて三文で一つの別辞を成している。「どうも」が、リズムカルにあいさつ文表現の調子をととのえているのではないだろうか。また、「どうも」は、連文表現を全体的に統一させる重要な役割を果しているものとも考える。

一、三 「どうも」「+」「」の連文表現

さて、これまでは、「どうも」が文表現上、修飾話部としてはたらく用例を見てきたが、実際の話しことばの現場においては、つきのような観察もなされるのである。

③⑧ どうも。いつも 父が お世話になっております。

③⑨ どうも。ごぶさたします。

などでは、「どうも」は、修飾話部としてはたらいっているのではなく、もはや、「どうも」という文として独立してはたらいっているのである。この場合の「どうも」は、出合いのあいさつ表現となっている。

④⑩ このあいだは どうも。ありがとうございました。

というのも、これに類するあいさつことばである。

別辞としても、よくはたらいっている。

④① では どうも。お疲れさまです。お先に 失礼します。

④② どうも。お邪魔しましたー。

④③ どうもー。ごちそうさまでしたー。失礼します。

などは辞去のあいさつことばである。送辞では、

④④ わざわざ どうも。すみませんでした。ありがとうございます。

④⑤ あっ どうも。ご苦労さまでした。

④⑥ どうもっ。ありがとうございました。

などの用例がある。

「どうも」文は、このほかに、謝辞にもよく見られる。

④⑦ どうも。すみませんねえ。いっつも いたたくばっかりで。

④⑧ どうも。ご親切に。

日本語のあいさつことば — 「どうも」のはたらきについて —

これらの「どうも」は、連文じたての表現となっているものである。しだいに、「どうも」が独立していくさまが見てとられる。「どうも」は、本来の感謝・陳謝・ねぎらい等のあいさつ文表現において、その役割をになう一方で、やがて一文として独立し、談話展開上の機能をも有するに至る。

二、「どうも」の文表現

これまでに、「どうも」がかかわる、単文、連文の表現の類型を整理して、修飾部としてのはたらき、あるいは文として独立しやすい性質のあることを見てきた。

これからは、修飾部としてではなく、独立した「どうも」という文表現の生きるさまを見ていくことにする。つまりは、これまでに見た「どうも」がかかわる文表現から、「どうも」以外の部分が省略された「どうも」文でも言える文表現のはたらきを観察することに。なぜ、「どうも」以外のものが省略されたのか。省略の意味するところは何かというのは、現時点ではよく説明することができない。が、まずは、談話上での「どうも」文の用例を、分類、整理することからはじめたい。

第一番目に、詫びの場面から見る。

(49) 電車で、ひとの足を踏んだ時

a あっ どうも

b いえ。いいですよ。

〈50〉(教室を間違えて入った時)

a あつ。

b まだ 授業中ですよ。

a はあつ、どうも。

〈51〉(相手が忙しい時にたずねた時)

a あのう。

b いま ちよつと 忙しいんだけど。

a どうもー。

b また あとで。

a はい。じゃあ のちほど。

などの用例がある。これらの場面は、いずれも瞬時に詫げるものである。陳謝の意を表す部分が省略されているが、時間的に緊張したもので、対遇上の上下には関係なく、失礼な表現とはならない。しかし、時間的に余裕のある場合、詫びの表現としては「どうも。」文だけでは失礼となろう。詫びは、対遇上の上下関係に左右されることなく、本来は、陳謝の表現の部分を省略することはできないものである。

第二番目に、感謝の場面を見る。謝辞の場合は、ことがらに対する感謝の度合、相手に対する対遇上の度合などが、感謝の表現の部分の省略に関係している。

〈52〉(友人宅に電話をした時)

a あ もしもし。aと申しますが、cさん いらつしやいますか。

b あー いま ちよつと 出かけているんですけれど。

a あつ そうですか。それじゃあ 伝言していただけますか。

b はい。なんでしようか。

a あしたの 1時間目が休講になったと お伝えください。

b はい。わざわざ どうも。

a いいえ。それでは 失礼します。

この用例は、aが女子学生、bがaの友人の母親で、対遇上の上下関係がある。ことがらに対する感謝度も高くはない。ことがらに対する感謝度が低く、対遇上、上位に立つ場合には、省略された表現の「どうも。」文が使われる。

つぎのような場面にも、一つの類型が見てとられる。

〈53〉(空席を教えられた時)

a この席 あいてますよ。

b あつ どうも。

〈54〉(落とし物を注意してもらった時)

a あのう、ハンカチ 落ちましたよ。(渡してすぐ去る。)

b えっ あつ どうも。

〈55〉(道を教えてもらった時)

a すみません。郵便局は どう行つたらいいですか。

b ここを 右に曲がつて すぐですよ。

a どうも。

などの用例は、感謝の対象のことがらが、特に丁寧に謝意を述べるとはならない。日常よくある当然のマナーとも言える、感謝度の低い場合である。そして、一つの談話が、いずれも「どうも。」で終わっている。ここでは、省略が、談話の切り上げに効果的に役

割をはたしている。なお、これらの場面では、あいさつ文表現の後
に会釈を伴うことが多いようだ。

感謝表現は、相手の行為などに何らかの恩恵を受けたことに対し
て述べられるものである。が、それが常に受け手の意にならな
るといのではない。つぎのような用例がある。

〈56〉(頼んでもいない本をすすめられた時)

a これ おもしろいから 読んでみて。

b はあ どうも。

心から有難いと思えない場合は、当然のことながら「ありがたい」
という表現は省略する。あるいは、励ましや誉めことばに対してと
まどいを感じた時なども、「どうも」「文で応じている。

〈57〉(励まされた時)

a 勉強 がんばりなさいよ。

b あ どうも。

〈58〉(誉められた時)

a b 子、いつも きれいだね。

b どうも。

などの用例がある。

「どうも」は、相手の行為を受け取ったことを示す合図とも言え
るような機能も有している。

〈59〉(駅で切符を回収したり、定期券の確認をする時)

駅員 はい どうも。

がその用例である。この種のものを、仮に「受け取りの合図」とし
ておこう。

日本語のあいさつことば — 「どうも」のはたらきについて—

謝辞の「どうも」は、対遇表現上、目上から目下へ、あるいは
対等の場合に使われる。行為の対象への感謝度は、それほど高くは
ない。また、受け手にとつて有難くない、あるいはとまどいを感じ
るといふ場合もある。さらには、談話展開上の機能から見ると、受
け取りの合図、談話の切り上げにもはたらくものであることがわか
る。

第三番目に、出会いの場面を見る。「どうも」は、出会いがしら
にかわされることが多い。

〈60〉

a どうも。こんばんは。

b こんばんは。

〈61〉

a いやあ b さん。こんにちは。久しぶりですね。

b ああ どうも！

など、先に声をかける方にも、応じる方にも両方に使われる。

〈62〉

a あらあ せんじつは どうも。

b こちらこそ どうも。

も、よく聞かれるものである。また、状況がら一方的な出会いのあ
いさつことばともなっている。

〈63〉(デパートで知人に会って)

あつ どうも。(会釈をする)

〈64〉(自転車で走りすぎながら)

a どうもー。

〈65〉(テレビで、司会者が登場して)

a どうもー。こんにちは。

などの用例がある。出合いの中でも、特に人と人とが紹介される場面でも「どうも。」が使われる。

〈66〉

a こちらが ○○会社の b さんです。

b あっ どうも。はじめまして。

c はじめまして。

〈67〉

a b ちゃん。

b あー a ちゃん。久しぶりー。元気。

c うん。b ちゃんも 元気そうじゃね。

b うん。あつ このひと。あたしのともだちで c さん。いつか

話したことがあると思うけど。

a あー、あの c さん。

c どうも。

a どうもー。こんにちは。

など、公的、私的の別なく、人(自己も)の紹介が行われる時に聞くものである。

第四番目に、別れの場面を見る。まず、別れを切り出す時の「どうも。」の用例に、

〈68〉

a ほんとうに すみません。わざわざ 送っていただいて。

b いいよ。それじゃ どうも。さよなら。

a ほんとに ありがとうございます。さようなら。

〈69〉(アルバイトが終って帰る時)

a じゃあ どうもー。

などがある。あるいはまた、送る時のことばともなる。

〈70〉

a お疲れさまでしたー。お先に 失礼します。

b どうもー。ありがとうございます。

〈71〉(学芸会の司会者が)

a はい。どうも。演劇部のみなさんでしたー。みなさん。拍手ー。

などの用例がある。さらには、告別、送別の区別もなく、とにかく別れ際のあいさつ表現ともなる。

〈72〉(店で)

a どうも ありがとうございます。

b どうもー。

〈73〉(病院の受け付けで)

a お大事に

b どうも。

〈74〉(電話で)

a すみません。きょうは ○○なので 休ませていただきたいんですが。

b はい。わかりました。

a すみません。失礼します。

b はい。どうも。

などが、その用例である。「どうも。」は、日常生活において、感謝度、詫び度、対遇度などがいづれも高くない場合の別れのことばとして活用されている。

おわりに

「どうも。」は、どうにもとらえにくい文表現である。一つの機能に注目して記述しようとしても、同時に他の機能をも有しているので、分析しようとすると、その複雑さにふりまわされてしまう。修飾部の「どうも」だけを残し、他を省略させた文表現は、省略をしない本来の文表現の持つ意味あいを内包しつつ、より身軽になつて多機能で万能的なあいさつことばとなっているのである。

ここで、もう一度、「どうも。」文表現について観察されたことをまとめておきたい。

- (1) 「どうも。」文は、省略される以前の、感謝、ねぎらい、陳謝等の意味あいを背後に有している。
- (2) 「どうも。」文は、意識的に「有難くない」「とまどい」等を表現する場合がある。
- (3) 「どうも。」文は、感謝、陳謝等と対遇の度合が低い場合に使用する。
- (4) 「どうも。」文は、談話を時間的に短縮し、簡略にして、煩しさをことごとしさを避ける役割を果している。
- (5) 「どうも。」文は、談話の展開上の機能を持ち、「切り出し」

日本語のあいさつことば — 「どうも。」のはたらきについて—

「切り上げ」「受け取り」等にはたらく。

- (6) 「どうも。」文は、簡素な形になって、より自由に、より多機能になっている。

参考文献

『日本語学 9月号 特集 省略』(一九九三年VOL・12 明治書院)

『欧米人が沈黙するとき——異文化間のコミュニケーション——』(直塚玲子 一九八〇年 大修館)

「感謝のあいさつことば——『ありがとう』と『すみません』について——」(住田幾子 梅光女学院大学日本文学会『日本文学研究第二十六号』一九九〇年十一月)

「日本語の詫びのあいさつことば——女子学生の言語生活における談話資料をもとにして——」(住田幾子 梅光女学院大学日本文学会『日本文学研究第二十八号』一九九二年十一月)